

令和2年度 第1回 言語聴覚療法学科 教育課程編成委員会 報告書

日時：令和3年2月9日（火）15:00～16:00

場所：zoom形式

参加者氏名

委員 市川 勝 （北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻）
委員 畠田 将 （一般社団法人巨樹の会 江東リハビリテーション病院）
教員 浜田 智哉 （日本福祉教育専門学校 言語聴覚療法学科）
職員 草島 由紀 （日本福祉教育専門学校 教務課）
職員 丸山 航也 （日本福祉教育専門学校 教務課）

議題

1：職業実践専門課程の説明および教育課程編成委員会の概要

浜田委員より、職業実践専門課程の説明と教育課程編成委員会の位置づけの説明があった。

【専門実践専門課程の説明】

「職業実践専門課程」とは、以下の取り組みを行う専門学校の課程（学科）に対し、文部科学省が認定する課程である。

1. 企業と密接に連携した授業
2. カリキュラム編成に企業等の意見を反映
3. 教育研究の充実
4. 学校関係者評価や自己点検の実施
5. 学校情報の公開

【教育課程編成委員会の位置づけ】

「職業実践専門課程」が認定される要件の一つとして「教育課程編成委員会」を設置することが定められている。この委員会では、関係団体の有識者の方から委員としてご意見を頂き、よりよい学校を作っていくことを目的としている。

【教育課程編成委員会、委員の要件】

教育課程編成委員は、対象学科に対して以下のいずれかの要件を満たす方を専任することとなっている。

- (1)「業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員」
- (2)「専攻分野に関する学会や学術期間等の有識者」
- (3)「実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関連施設の役職員」
- (4)「学内の教育課程の編成の責任者又はそれに準ずる者」

2：委員の紹介

浜田委員より、各委員の紹介があった。

【委員の紹介】

市川 勝 先生

- ・北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻 講師
- ・神奈川件言語聴覚士会副会長

上記要件のうち、1. と2. を満たしており、委員として依頼させていただいた。

畠田 将行 先生

一般社団法人巨樹の会 江東リハビリテーション病院リハビリテーション科 科長
同 医療連携室長

東京都理学療法士会 代議士

上記要件のうち、1. と3. を満たしており、委員として依頼させていただいた。

3：2020年度 報告

浜田委員より、今年度の報告があった。

【言語聴覚療法学科の統合と次年度の体制について】

敬心学園内の日本福祉教育専門学校言語聴覚療法学科と臨床福祉専門学校言語聴覚療法学科の統合は3年前から統合に向けた準備を行っており、次年度2021年度より日本福祉教育専門学校言語聴覚療法学科に統合される。

また、統合に伴う次年度の教員は8名体制となる。次年度新1年生より新カリキュラムが適用され、2022年度からは1、2年生共に新カリキュラムへ移行する。

【ST学科在籍者数及び国家試験合格率について】

今年度、1年生は69名、2年生33名、次年度、2021年度は80名の予定。昨年度より入学者数が伸びているが、要因としては、臨床福祉所属の教員が募集活動に加わったこと、臨床福祉が募集停止したことがある。次年度入学予定の80名は関東の2年生大卒課程で最大の人数となる見込。

【2020 年度学生アンケートについて】

希望する領域として、約 6 割の学生が「小児」を上げている。小児発達の潜在ニーズが高い。不安な点として、コロナ禍の中、オンライン授業が中心となった事により「検査実施」、「患者さんとの接し方」、「勉強不足」に不安を感じる学生が多い。自習については、家族の事情や金銭的な問題により「自宅から通いたい」と考える学生が多い。

【学生アンケートを受けた面談について】

希望領域を選択した理由、実習地・宿泊の可否、オンライン学習での不安について面談で確認した。

(1) 希望領域について

小児を希望した理由は、臨床のイメージがつきやすいからというものがあった。また、希望は小児だが、実習先は小児の実習先が少ないことは承知しているので実習先は別の領域でも構わない。

(2) 実習での宿泊について

ヒアリングをすると自宅から通いたい学生が多い。

(3) オンライン授業について

オンライン学習に不安を感じる学生が多かった。主な理由は、クラスメイトがいない事により自分の達成状況が分からないことを挙げる学生がいた。

4：2021 年度の予定について

浜田委員より、2021 年度言語聴覚療法学科の予定について説明があった。

【言語聴覚療法学科の DIPLOMA、CURRICULUM の説明】

DIPLOMA：卒業時に身につけておくべき内容

CURRICULUM：授業内容

DIPLOMA・CURRICULUM のポリシーについては、大学・専門学校でも広く外部に開示する流れとなっており、本校の言語聴覚療法学科でも定めた DIPLOMA を回部に開示している。

言語聴覚療法学科は 2 年間で非常に多くの科目が入り組んでいるが、それぞれの領域ごとに専門基礎・専門・演習・臨床実習と段階的に学べるように時間割を組んでいる。これにより、学生が体系的に学べるように心がけている。

【言語聴覚療法学科の ADMISSION POLICY】

入学選考にあたっては、倫理観・ホスピタリティーを重視している。そのため、面談重視の

入試を実施している。

【学校でのその他活動について】

言語相談室を活用した授業・臨床を展開していく。認知症の方との啓蒙活動についても学生時代から関わっていく。脳解剖の実習、VR 認知症体験なども取り入れていく。

【来年度の授業形態について】

対面授業とオンラインのハイブリッドで行う。

動画の垂れ流しでは学生の不安が解消されない。ハイブリッドならではの学習効果が高まる方法で授業を実施していく。授業にあたっては PC の知識が必要になるため、IT リテラシーについても併せて説明をしていく。

オンライン講義のガイドラインを定め、ハード面、ソフト面での環境を整える。対面授業にあたっては、学生の距離やボードの設置など感染対策についても行っていく。

【言語相談室の規模/機能を拡大】

臨床福祉のノウハウを活かしながら、現在の日本福祉の言語相談室を拡充していく。学校内の言語相談室の臨床風景を見学可能な環境を整える。臨床そのものを素材とした授業を展開する。学内実習にも言語相談室を活用していく。

小児希望のニーズに対しても、相談室を利用して対応していくことが可能。

【使用教室の変更】

実習室/自習室を取り入れ、学習環境を整えていく。

【臨床実習の日程】

前半が 4 週、後半が 8 週、計 12 週の実習を 2 年次の 8 月以降連続して行う。座学は 1 年 3 か月で修了。

前期：8 月 2 日～8 月 27 日もしくは 8 月 16 日～9 月 10 日のいずれか

後期：9 月 27 日～11 月 19 日もしくは 10 月 4 日～11 月 26 日のいずれか

現在、115 施設 135 名分の実習施設を確保しており、次年度 2 年生の学生が全員実習可能な施設を確保している。

【インターン実習について】

実習に行く前に内々定を出してもらおう。前期と後期は内定先となる見込の施設に実習に行く。

メリットは以下の通り。

・病院側

前年度から求人確保ができる。新人教育を早くから進められ、即戦力となる。病院側が実習生を選択できる。

・学生側

就職の心配がなくなる。環境へ順応しやすくなる。就職先が決まっているため学習が主体的になる。

・学校側

中退率を下げ、就職率を上げる効果が見込まれる。継続的な実習先の確保ができる。

【学校と実習先との関係性について】

これまでは、専任教員や卒業生とのつながりをもとに実習先を選んでいった。結びつきは強固となるが、関係性が固定するなどの弊害も考えられる。

今後は実習先を広く募集する。半数は新規の実習先となる。緊張感を持った関係性となる。実習だけではなく、非常勤として招聘しうる。共同研究するなど。単なる実習先ではなく、「パートナー」として、学校と病院が協力して学生を育てていくモデルを作る。

5：次回までの課題

新型コロナ禍における教育

教育のあり方、工夫について

新型コロナ禍における実習

現場の取り組み、次年度の本校の実習に対する方針

両先生からのご意見をお伺いした後、本校で考えているハイブリッドでの教育について説明をさせて頂く。

6：質疑応答

【質問1】

ディプロマ・ポリシー倫理観に重点を置かれているが、倫理観は教育することが難しいところがあると思うが、どのように教育していくか。(市川委員)

【回答】

座学だけでつくようなものではないと考えている。実際の臨床現場や見学などの経験を早期に取り入れて、体験させることが重要ではないかと考えている。授業の中でも教員が講義する授業だけではなく、障害の当事者をゲストスピーカーとして招いてご意見を伺う授業を設けるなど、リアルな意見を早くから学生に意識させることを心がけている(浜田委員)。

【質問 2】

2018 年にモデルコアカリキュラムができた。PT、OT では、「リハビリテーション管理学」のテキストができており、マネジメントの部分や社会保障制度、職業倫理の内容が入ってきている。新しいカリキュラムで取り扱う予定はあるか（市川委員）。

【回答】

コアカリキュラムの委員会に学会の度に参加していた。ディプロマ・ポリシーを作成する際にもコアカリキュラムを参考に作ってきている。

今の実際の臨床に併せていくことがポイントかと考えている。受動的な座学の授業だけではなく、アクティブラーニングなど主体的に学んでいくことが重要と考えている（浜田委員）。

文責：教務課 丸山